

[成果情報名] 共同育種で開発されたイチゴ種子繁殖型品種「よつぼし」

[要約]種子繁殖型のイチゴ品種を、三重県、香川県、千葉県と独立行政法人農業・食品産業総合研究機構九州沖縄農業研究センターの共同育種によって開発し、品種登録出願を行った。

[キーワード] 種子繁殖、新品種、共同育種、早生性、四季成り性

[担当] 三重県農業研究所 野菜園芸研究課、香川県農業試験場、千葉県農林総合研究センター、独立行政法人農業・食品産業総合研究機構九州沖縄農業研究センター

[区分] 野菜部会

[分類] 技術・参考

[背景・ねらい]

本来、イチゴは栄養繁殖性の作物で、病虫害やウィルスの親子伝染を防ぐため都道府県単位の優良種苗供給体制によって種苗が供給されてきたが、体制整備から 30 年以上を経過し、その存続が危ぶまれる事態が多く発生している。これに対し、種子繁殖型品種は、増殖効率が非常に高く、病虫害に感染していない苗を容易に得ることができるため、イチゴ生産に変革をもたらすニュータイプのイチゴ品種として期待される。

[成果の内容・特徴]

1. 三重県農業研究所、香川県農業試験場、千葉県農林総合研究センターと独立行政法人農業・食品産業総合研究機構九州沖縄農業研究センターが、各々有する固定系統を総合に交換し合い、共同育種により F1 品種「よつぼし」を開発した。
2. 「よつぼし」は、三重農研の「イチゴ三重 3 号」を母系親に、香川農試の「A8S4-147」を父系親にして得られる F 1 品種である（図 1）。
3. 「よつぼし」の果実は、円錐形の光沢がある赤色で（図 2）、安定して糖度が高く全果汁糖度で 10.4～11.3、酸味も感じられ、濃厚で美味しい食味を特徴とする。
4. 早生性を有し促成栽培作型に適する。また、四季成り性を持ち育苗後期から定植後の長日処理によって花成誘導を促進させることができる（図 3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 基本的に西南暖地向け促成栽培用品種であるが、四季成り性を活かし、寒冷地の夏秋どり栽培への適応も期待できる。
2. 現在、農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「種子イチゴイノベーションに向けた栽培体系と種苗供給体制の確立（2013-2015）」においてモデル的生産者と連携し栽培技術確立等に取り組み、民間企業と「植物工場等先端的生産システムにおけるイチゴ種子繁殖型品種の商品化研究」の共同研究を実施している。
3. 平成 26 年 1 月 10 日に品種登録出願を行った（出願番号第 28844 号）。出願公表を待って発表を行う。その後、育成機関の間で許諾方針等の協議を行うため、種苗が市販されるまで 2 年程度を要すると予想される。
4. 育成 4 機関のいずれかを窓口とし、研究利用に関する育成 4 機関の合意を得ることによって、「よつぼし」を利用した共同研究を行うことができる。

[具体的データ]

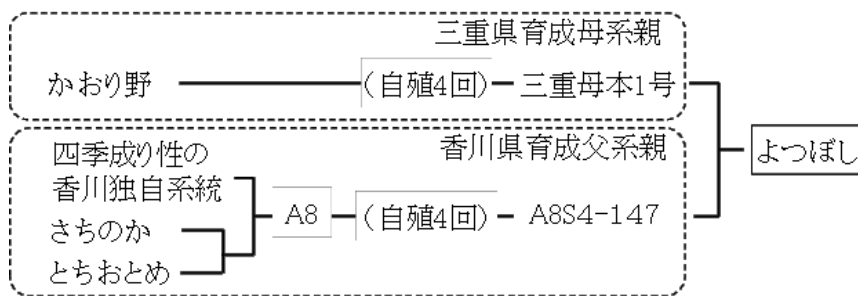


図1 「よつぼし」の系統図

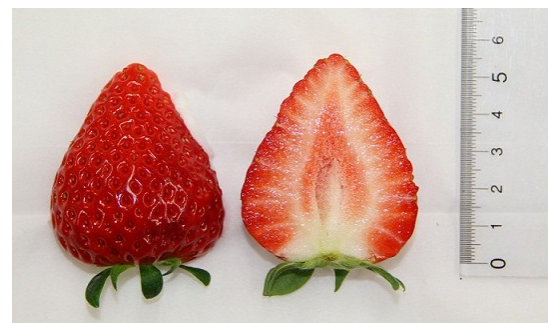


図2 「よつぼし」の草姿（左）着果状況（右上）果実（右下）

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
普通ポット促成	播種 5/24	鉢上げ 7/3			定植 9/26	出蕾		12/10 収穫
定植後長日処理	播種 5/24	鉢上げ 7/3		定植 9/7	電照	出蕾	11/27	収穫
育苗期長日処理	播種 5/24	鉢上げ 7/3		電照	定植 9/13	出蕾	11/12	収穫

定植後長日処理は24時間日長9/7～9/26、育苗期長日処理は日中遮光24時間日長8/24～9/7と24時間日長9/13～9/26

図3 普通ポット促成作型および定植後と育苗期長日処理の作型図（2012 香川農試）

（森 利樹）

[その他]

研究課題名：新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「共同育種による種子繁殖型イチゴ品種の開発と種苗供給体系の改革」

予算区分：国補

研究期間：2009～2012 年度

研究担当者：三重県農業研究所（森利樹、小堀純奈、北村八祥）、香川県農業試験場（井口工、加藤伊知郎）、独立行政法人農業・食品産業総合研究機構九州沖縄農業研究センター（曾根一純）、千葉県農林総合研究センター（石川正美、前田ふみ）

発表論文等：品種登録出願第 28844 号（平成 26 年 1 月 10 日）